

緩和ケアニュース

第59号

外来患者さんにご家族の相談場所

～困ったときの相談窓口について～



公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構
倉敷中央病院 緩和ケアチーム
2025年7月発行

患者さんの中には、病気のことで思い悩んだり、あるいは治療方法の選択などに迷ったりしたときに、「誰に相談したらいいのかしら」とか、「倉敷中央病院は広くてたくさんの患者さんがおられるのでどこで相談すればいいのか分かりにくい」などと、心の中でつぶやかれる方も多いのではないのでしょうか。今回はそういった悩みについて、どこでどのように相談すればいいのかといったことを緩和ケアチーム原恵里加看護師がお伝えいたします。

はじめに

倉敷中央病院の外来には、1日に約2500人（2024年度）の患者さんが来院されています。とくに倉敷中央病院は広くて、どこで誰に聞けばよいか分かりにくいと思います。

がんという病名を伝えられた患者さんは「覚悟はしていたけど途中から先生の言葉が何もはいつてこなくなってしまった」、「自分ががんになるなんて思いもしなかった」と衝撃を受けた状態で自宅に帰られる方もおられると思います。自宅に帰ってから考えないといけないことは山のようにあっても、何から手をつけたらいいのか分からないまま過ごしている方もおられると思います。

また、治療を通院で受けている患者さんの中には、「先生もお忙しいし、待合にいるみなさんのことを思うとなかなか聞きたいことが聞けない」、「先生に聞こうと思ってメモしていたのに、一つ聞いたらほかに聞くことを忘れてしまった」と気がかりをもったまま診察室から出てこられる方もおられます。自宅で、急な痛みや発熱などの症状がでたときや薬を飲み忘れてしまったときに、「誰に相談したらよいか分からない」と不安な思いを抱えながら次の診察予定日まで、我慢して過ごされている方もおられると思います。一緒に生活しているご家族からも「なんとかしてあげたいけど、どうしたらいいかわからない」と言われる方もおられます。

患者さんにご家族が安心して通院できるように、今回は、外来の相談窓口ならびに専門外来のご紹介をしたいと思います。



外来の相談窓口



「何科を受診したらいいのか分からない」ときには

- 総合案内（1-10 中央玄関をに入って左方向にあります）
受診に関する相談や療養上のお困りごとに対応しております。

午前8:30～午前11:00は、外来看護師が常駐しています。
11:00以降は、事務に「看護師と面談希望」とお伝えいただけますと連絡し対応いたします。

「どうやって診察室や検査室に行ったらいいのか分からない」ときには



•フロア係

診察室や検査室、売店などのご案内や搬送の介助等を行っております。
「案内係」というワッペンを付けているものに直接お声をかけていただくか、外来看護師や事務におたずねください。

←ボランティアの方の手作りです。

「心配なことや気になることがある」ときには・・・まず外来看護師に相談しましょう

受診している診療科の外来看護師が、面談あるいは電話で気がかりなことをお伺いし、一緒に対応を考えさせていただきます。

•面談：医師の診察前に面談し、医師に伝えたいことの整理や医師への連絡、ご要望に合わせて専門外来のご案内もさせていただきます。各診療科の受付事務に『看護師との相談希望』とお声をかけていただけたらと思います。

•電話：平日の午前 8 : 30～午後 4 : 00 に当院代表番号へ電話をかけていただき、交換手に通院している診療科名をお伝えください。診療科担当の外来看護師がご対応いたします。

「発熱、痛み、咳など、急な症状がでたときの受診はどうしたらいい？」

<診療科の予約をお持ちで、予約日以外での受診希望の場合>

•平日の午前 8 : 30～午前 11 : 00 までに外来の各窓口で受付をすると、通院している診療科の外来担当医師が診察を行います。

•平日の午前 11 : 00 以降、夜間、休日・祝日などの受診は、救急センターとなります。

専門外来 診察を受けた後、さまざまな相談への対応ができるよう専門の外来があります。
簡単ですが、専門外来についてご紹介いたします。

★がん相談支援センター

患者さんご家族のがんに関する不安や悩み、病気に対する疑問、経済的なことなど様々な相談を受ける窓口です。

•担当：がん専門相談員（医療ソーシャルワーカー・看護師）

•費用：無料

•場所：1-57 美容室隣

•相談方法：匿名でもかまいません。面談や電話などご希望に合わせて行います。

基本は予約制ですが、即日対応が必要な場合はご相談いただけたらと思います。



★リンパ浮腫外来

がん治療に伴う続発性リンパ浮腫のケアが必要と主治医が判断した場合に紹介されます。

- 担当者：作業療法士
- 相談方法：医師にご相談後、予約をいたします。

★がん看護外来

患者さんがその人らしく過ごせるように、日常生活で困っていることや気がかりなどに対し、看護の専門性を活かした支援を行う外来です。（例：治療選択への意思決定支援、身体症状の緩和に対する薬の調整を主治医と相談、治療や検査・自宅での生活に関する不安などの対応・相談や子どもへのかかわり方など）

- 担当者：がん看護専門看護師、がん性疼痛看護認定看護師、緩和ケア認定看護師
- 費用：要件を満たした場合に限りかかります。
(健康保険の負担が3割の方：600円、1割の方：200円)
- 相談方法：医師あるいは看護師にご相談ください。

★緩和ケア外来

身体症状や精神症状など、患者・家族が抱える苦痛が少しでも緩和できるように主治医とともに支援を行う外来です。

- 担当者：緩和ケア担当医師と看護師
- 相談方法：医師にご相談後、予約をいたします。
- 予約：平日午前10:00～午前11:00、木曜日のみ午後3:00～午後4:00

ある日、患者さんから「自分と同じような患者さんはいますか。みんなどうやってこの試練を乗り越えているのでしょうか。自分だけつらい思いをしているのでしょうか。ほかにも同じ思いをされている方はいるのでしょうか」と相談を受けました。また、別の患者さんに「家にいるといろいろなことを考えてしまって不安になるけど誰にも話せない。病院で先生や看護師さんに会うとほっとする」と言われました。皆さん自宅でどれだけの思いを巡らせて、不安な気持ちを抱えて過ごしておられるかと慮られます。

外来のさまざまな窓口を知っていただくことで、通院中の気がかりを一つでも減らして暮らしていただけたらと思い、今回のテーマを選びました。誰かに相談することは、勇気を必要とするかもしれませんが、良かったら気がかりや気持ちのつらさを一緒に考えさせていただけたらと思います。

編集後記

表紙の写真は外来玄関ホールの天井に描かれている鳥の絵で、吉祥文様とも呼ばれる「花喰鳥（はなくいどり）」の文様です。「幸せを運ぶ鳥」を表しているといわれ、患者さんやご家族の健康や幸せの願いが込められています。



発行元：公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院 緩和ケアチーム

編集委員長：佐野 薫（医師）

編集委員：伊墻 美幸（薬剤師） 笠原 真由美（事務） 酒井 清裕（医師） 平田 佳子（看護師） 50音順